

拝啓 今年も早や年の暮れとなりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。朝晩、最近は昼も、犬（「ひな太」といいます）を連れて、近所の公園を散歩します。彼も年を取ったため、朝起きるとすぐおしっこに連れて出ます。数カ月までは私を引っ張って歩いていたのが、私が引っ張って歩かせることもしばしばです。

今回は、内村鑑三先生の『続一日一生』からの引用の9回目です。

9月13日のところに、次のようにあります。「神の教えであるキリスト教は、了解って了解る者ではない。信じて了解る者である。了解れば信ずるの必要はない、そして了解ってしまって信ずる必要のなき宗教は、真の宗教でないから、了解る必要のない者である。宗教はもとこれ信ずべき者であって、了解るべきものではない。信ずればこそ、宗教に能力があるのである。キリスト教が神の教えである最も明らかなる証拠は、それが了解そうで了解らないことにおいてある。」逆説的な説明ですが、その通りだと認めざるを得ないと思います。

小西先生の説教集『わが主イエスよ』が出版され、24日は、一日発送の準備をしました。考えてみれば、今から約40年前に、高円寺東教会という小さな、30人も入れば満員となる小さな教会で話された説教が、録音テープとして残され、それを私たちの集会で、テープ起こしをしながら聞いて、本にするために、何度も何度も修正を加え（小西先生は、大阪弁で話されました）、やっと出版されました。不思議な力が働いて、この出版にたどり着いたと思うほかありません。小西先生の恵心流キリスト教が、話されたとおりに再現されています。エンカウンターの読者の皆様には、別便でお送りいたします。

建設省時代の親しい友人がなくなり、葬儀を少し手伝いましたが、彼はお酒の席が好きで、酒席では談論風発、辛口の人物批評が得意な人でした。私も彼のおかげで、だいぶ世間を広げることができました。

12月23日の天皇誕生日には、10年以上続けている、陣馬山（855m）という低い山に登り、下って陣谷温泉で一杯やるという忘年登山を今年もやりました。夜来の雨が上がり、快晴に恵まれ、筑波山、日光の男体山も見えました。私の山登りは、中学校2年生の時、林間学校で伯耆大山（1713m）に登ったのが最初でした。高校時代岡山エーデルヴァイス山岳会に入れて頂き、大学時代法学部山の会に入り、今日まで続いており、これは死ぬまで続けようという決心をしている私の趣味であります。

年末から年始にわたる何かと忙しい時期、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。そしてよいお年をお迎えください。

敬具

平成28年12月25日

山口周三

エンカウンターの読者各位